誰も置き去りにしない社会へ

杉山あつし だより

県政へのご意見をお寄せください

発行者：杉山あつし（静岡県議会議員）　静岡市駿河区富士見台2丁目3-34-13
電話 090-1279-1443　FAX 054-282-0143

第２８号（2026年4月10日発行）

ご挨拶

3/16、県議会2月定例会が閉会。最終日には文化観光委員長として委員会報告を務めました。

今定例会の最大の議案は令和8年度当初予算です。昨年10月には副知事から「自転車操業」「危機レベル」といった厳しい財政状況が示されましたが、県税収入の上振れ、追加の交付税措置、事業の精査などにより、当初50億円と見込まれていた基金積立額は180億円へと増額され、財源不足は大幅に圧縮されました。

この冬は例年以上に寒さが厳しく、2/9には最低気温マイナス3.9℃を記録。2/8の衆議院選挙投票日には20年ぶりに3センチの積雪があり、雪だるまが作れるほどでした。

東日本大震災から15年となる3/11には、今年も福島こども支援の街頭募金に協力しました。震災直後、私たちは「大規模地震と原発は共存できない」ことを痛感しましたが、政府の原発回帰方針は変わらず、強い懸念を抱いています。

国際情勢では、1月のベネズエラ情勢に続き、2/28からはイランへの攻撃が始まり、ホルムズ海峡の閉鎖による原油輸出停止、ガソリン価格や物価の高騰など、生活への影響が続いています。

日本の防衛費は増額が続き、ついに世界4位規模となりました。復興特別所得税の一部が2027年から防衛特別所得税へ転用されるなど、防衛増税も始まります。私は国に対し、防衛費増額よりも大学無償化や介護保険負担軽減など、暮らしを支える政策の充実を求めていきます。

富士見台2丁目公園の積雪（2/8）

委員長報告の様子（3/16）

静岡県議会 2月定例会　注目した質問・答弁

- 県立総合病院の役割、医師少数県で果たすべき公的任務について
- 熱海土石流災害での職員の責任、対応。職員の当事者意識を高める努力について
- 県職員採用の即戦力の公務員経験者や勤務地限定採用を導入する(答弁)
- 浜松新野球場の県負担「草薙野球場相当(100億円)」を上限を念頭とする(答弁)
- 国の積極財政に呼応し国庫財源の確保に努め、予算措置が地域に行き渡るよう取組む(答弁)
- 浜岡原発の基準値振動データ不正はあってはならないこと、国に審査体制の見直しを要求していく(答弁)

県財政「危機宣言レベル・自転車操業」を考える　その2

前号では、令和6年度決算に基づき、主要3指標のうち①経常収支比率と③将来負担比率は改善している一方、②実質公債費比率が悪化していること、また県債（借金）と基金（貯金）がともに減少していることから、「危機宣言レベル」という表現は正確さを欠くと報告しました。

今回の2026年度予算編成では、事業の徹底した見直し、国の財政措置の拡大、税収の上振れにより、基金積立額は当初見込みの50億円から130億円増の180億円となり、改善しました。一方で、県債の金利上昇に伴う借換え負担が今後の重荷となる可能性も指摘されています。

こうした状況を踏まえ、私は経費が大きい沼津の鉄道高架事業について、高架区間を5.4キロから静岡市並みの3.1キロへ縮小すること、また浜松新野球場の建設延期、ドーム断念など、将来負担を抑えるための見直しを提案していきます。

県議会常任委員会での質疑（3/5･6）

文化観光委員長として委員会運営を担当。文化・観光分野では、毎回注目される静岡空港、富士山、駿河湾フェリーに加え、今回は日本平山頂にある日本平夢テラスの使用料徴収に関する議案も審議されました。

静岡空港では、日中関係の悪化により中国便が休止しているうえ、千歳便・那覇便を運航するANAが10月以降撤退が決定し、路線維持に向けた課題が浮き彫りとなっています。

また、日本平夢テラスの有料化に向けて展示スペースの改善が必要性や富士山の開山日を山梨県側と統一する課題などの質疑が注目されました。

「浜岡原発3･4･5号炉廃炉」を県に要請（1/19）

県議らが浜岡原発廃炉を要請

脱原発自然エネルギー推進静岡議員の会として、浜岡原発3・4・5号炉の廃炉を県に要請しました。浜岡原発では、基準値振動データを偽装したまま審査が行われていた問題が明らかになっており、安全性への信頼が大きく揺らいでいます。塚本副知事への申入れでは、私から「県が力を入れている企業立地や移住政策にとって、原発の不祥事は大きなマイナスとなり、地域の将来に悪影響を及ぼしかねない」と指摘しました。大規模地震と原発は共存できないという教訓を踏まえ、引き続き廃炉を求めていきます。

3.11を忘れないin静岡の福島こども支援街頭募金（3/11）

こども支援募金の様子
静岡駅地下道

福島の子どもたちの健康を支える団体を応援する取り組みで、震災から15年が経つ今もなお重要な活動です。

福島県では、小児甲状腺がんの患者が疑いを含め400人を超えており、健康への不安は続いています。また、福島原発事故により現在も2万3410人が避難生活を余儀なくされています（2026年2月・政府発表）。原発震災の教訓として原発事故の悲惨さを伝え続けるとともに、福島の子どもたちを支える活動に今後も協力していきます。

「富士山大学女子駅伝」開会式に参加（12/29）

文化観光委員長として「富士山大学女子駅伝」の開会式とレセプションに参加。この大会は、富士山の世界文化遺産登録を受け、4年間の休止を経て静岡県が誘致し、2013年から富士市・富士宮市を舞台に再開されたものです。

レセプションでは、中継を担当する増田明美さん、学生陸連会長で元JR東海社長の松本正之さんと名刺交換をしました。松本さんは現在もJR東海参与としてリニア中央新幹線に関わっており、リニア問題について意見交換する貴重な機会となりました。

「大学生の貧困を考える会」報告会（2/22）

県立大学で食糧支援を行う「たべものカフェ」から活動状況の報告があり、また淑徳大学の米村美奈教授からは、大学におけるソーシャルワーカー（SWr）の必要性、支援の目的を学内で共有する重要性、休学・退学の背景にある生活困窮の実態などについて講演がありました。

特に、学長の92%が「学生支援を強化したい」と回答している一方で、現場では貧困が見えづらく、支援が届きにくい現状があるとの指摘が印象的でした。

県立大学の「たべものカフェ」は指定寄付金や街頭募金で運営されていますが、この2年間は寄付が減少しており、継続が危ぶまれる状況です。学生の学びを支えるためにも、安定した支援体制の構築が求められています。

自治体議員連合主催・地方財政セミナー（2/10）

自治体議員連合が主催する地方財政セミナーに参加。メイン講師は総務省自治財政局・神門純一財政課長で、2026年度地方財政計画について詳しい説明がありました。

主なポイントは以下の通りです。

- 12月補正で1.5兆円の地方交付税が追加交付されたこと。
- 税収が堅調に推移し、臨時財政対策債の発行が2年連続ゼロとなったこと。
- 労務費・原材料費の変動に応じ、自治体は、契約期間中でも変更契約に努めること。
- 高校無償化・学校給食無償化に関する自治体財政上の措置。
- 3月末で廃止される軽油引取税の暫定税率や環境性能割の財源を補填

地方財政の動向を国の担当課長から直接話を聞ける貴重な機会であり、今後の県財政の分析など大いに役立つ内容でした。

被災72周年 3.1ビキニデー全国集会（3/1）

集会では、第五福竜丸の元漁労長・故見崎吉男さんの娘である杉山厚子さんが、当時の状況を父の体験をもとに語られました。被ばくの実態や漁師としての苦悩が生々しく伝わり、胸に迫る講話でした。

また、高校生平和大使からは核兵器廃絶への力強い訴えと歌の披露があり、次世代が平和の課題を真剣に受け止めている姿に深い感銘を受けました。核のない世界をめざす取り組みを、これからも地域から支えていきます。

県職支部春闘学習会で県財政を報告

1/20（東部庁舎）、1/22(富士庁舎）、1/28（藤枝・御殿場庁舎）の3日間にわたり、県職員組合支部の春闘学習会で講師を務めました。春闘情勢の解説に加え、県財政の現状や主要財政指標の動き、基金と県債の推移、投資的経費の増加要因などについて詳しく説明し、各支部の皆さんと意見交換を行いました。

大谷小鹿地区区画整理事業の説明会（3/13）

静岡市大谷小鹿まちづくり推進課からは、今後のまちづくりの方向性について説明がありました。私からは、第1期の恩田原片山区画整理事業について、多くの富士見台2丁目住民から「富士山の景観が奪われた」との声が寄せられていること、また静岡市と警察の連携不足により、道路工事が遅れているにもかかわらず、当初計画どおり優先道路を変更し一時停止標識を付け替えた結果、事故が多発した問題を報告しました。

一方、第2期となる宮川水上区画整理事業については、進出企業の説明がなく残念でした。地域の暮らしに直結する重要な事業であるため、今後も引き続き関心を持って対応していきます。

杉山あつし　プロフィール

1962年　10月31日生(駿河区南町生まれ)
静岡学園幼稚園･富士見小学校･高松中学校卒業
1981年　静岡東高校卒業(16期生)
静岡県職員に採用(民生福祉･税務に従事)
(財務事務所、中部民生事務所、こども家庭相談センターに勤務)
2012年　静岡県職員組合専従役員(11年7か月) 49歳時に県を退職
2019年　県議会議員選挙(駿河区)に初当選　現在2期目
2020年　産業委員会副委員長　2023年　文化観光委員会副委員長
2024年　文教警察委員会副委員長　2025年　文化観光委員会委員長
会派「ふじのくに県民クラブ」、静岡東高校後援会前会長

編集後記

3/17に静岡市都市局に対し、スマートインターチェンジ周辺における交通安全対策および渋滞発生を未然に防ぐため、広域的な道路整備の推進を要請。面的な交通対策の強化が必要であるとの認識を共有しました。

3/16に「清庵・静岡地区県立高校の在り方に係る地域協議会」を傍聴。1学年2クラスの静岡西高校、4クラスの清水西高校を対象に個別協議が行われ、両校の再編に着手する方向性が示されました。急速な少子化の進行により、県立高校の再編は全国的にも避けられない課題となっています。地域の皆さまのご意見をお聞かせください。

日本平山頂にある「日本平夢テラス」について、10/1から大人1人100円の観覧料を徴収する条例案を可決。施設維持管理のための措置です。無料期間中の見学をお勧めします。

利活用が難しい空き家の解体費用に対する補助制度を静岡市がスタートさせます。補助率1/2で上限は100万円です。土地の流通促進が目的です。

■杉山あつし事務所/自宅
静岡市駿河区富士見台2丁目3-34-13
TEL　FAX:054-282-0143
携帯電話:090-1279-1443
MAIL:kycdh891@yahoo.co.jp

日中は主として県庁内議員控室で活動しています